

登米中

「森舞台」で伝統の能体験



これがイチオシ

とよま囃子の踊り披露

登米の伝統行事である「秋祭り」はご存じでしょうか？ 秋祭りは、毎年9月下旬に行われ、子どもたちが太鼓をたたいたり、笛を吹いたりして「とよま囃子」を演奏します。登米中生は、とよま囃子の踊りを地域の方々と一緒に練習し、秋祭りのほかに運動会でも披露します。

300年以上続く秋祭りを私たちが守り伝えていきたいと思えます。残念ながら今年もコロナの影響で中止ですが、再開された際は、みなさんと一緒に楽しみたいと思えます。

学校名 登米市立登米中学校
所在地 登米市登米町日根牛小川向10
創立 1947年
電話 0220(52)2269
校長 千葉 純子
生徒 85人

登米中学校では、毎年3年生が伝統芸能伝承館「森舞台」という能舞台で、登米能の体験学習を行います。森舞台には4本の柱があり、手前左から反時計回りに目付柱、ワキ柱、笛柱、シテ柱と呼ばれます。舞台上には、いくつもの水がめが置かれ、音響効果を高めているそうです。

能体験では、能に関する歴史や「高砂」という能の謡いも学びます。実際に謡ってみたいところ、リズムが独特で普段話さない口調のため、難しさを感じました。登米能は、1998年に、県の無形民俗文化財に指定されました。心得以外に細かな手引書はなく、口伝で受け継がれてきました。登米謡曲会の方々を守ってきたすばらしい伝統を、私たちが守り伝えていきたいと思えます。



伝統の登米能と全国的に有名な「森舞台」を次代に受け継いでいきます

編集委員 堅岡優芽、柳沼静依、佐々木聖泰、渥美結愛（3年）
指導教員 板橋秀汰

歴史や謡曲「高砂」学ぶ

わが校わがまち スクール通信



今回は 越河小（白石市） 岩切中（仙台市）

音楽を通して心ひとつに

南材木町小



これがイチオシ

レンジャーがあいさつ

南材木町小学校では、毎週金曜日の朝にあいさつ運動を実施しています。異学年同士のつながりを深めたり、あいさつの習慣を身につけたりすることを目的としています。

児童会の活動を支える計画委員のメンバーが、その日は「あいさつレンジャー」に変身します。登校してくる友達に、元気なあいさつとともに、じゃんけんを挑みます。勝ち負けは関係ありません。自然と校内には、笑顔がふれています。もっと仲良くなれるように活動を続けていきます。

学校名 仙台市立南材木町小学校
所在地 仙台市若林区南材木町84
創立 1873年
電話 022(222)6847
校長 佐々木 康之
児童 324人

発表会へ練習にはげむ

南材木町小学校では、「音楽を通して心ひとつにする」という伝統を受け継がれています。開校150周年を迎える今年には、イベントも盛りだくさん。みんな仲良く取り組んでいます。毎年10月に「音楽発表会」を開き、学年ごとに合唱や合奏を披露します。発表会に向けて、月3回クラスごとに「うたごえタイム」で歌声を磨き、月1回いろんな演奏を聴く「音楽集会」に全校で取り組んでいます。部活動では「南の星合唱団」と「南の星吹奏楽

団」が活躍しています。合唱団は、きれいな歌声をイベントで披露していきます。吹奏楽団は、美しい演奏ができるように練習を欠かしません。また、150年記念事業として校地内にピオトープを作る計画が進んでいます。この計画は「以前、南材小にあった南材池を復活させたい」という地域の方々の声が後押ししてくれました。完成したらたくさんの方々の生き物が見られるほか、地域の方々の新たな交流の場にもなりそうです。今からとても楽しみです。



日々の練習の成果を発揮(はっき)して歌う「南の星合唱団」

編集委員 佐々木羽叶、菅原寛乃、平尾清武（6年）
指導教員 大波淳宏